

工 事 論 文

工 事 名 : 平成15年度障害防止(施設補修)東富士ダム補修工事
施 工 者 : 大成ロテック(株)・臼幸産業(株)共同企業体
執 筆 者 名 : 臼井 達也
工 種 名 : 斜面アスファルト舗装工
底面アスファルト舗装工

工 事 内 容 : アスファルト劣化によるアスファルトフィルダムの亀裂の補修工事



工事技術的内容 : 斜面舗装については、専用の斜面用アスファルトフィニッシャーを使用し、斜面上方の天端道路からウインチで引き上げる。転圧機械は、アスファルトフィニッシャーから接続されたワイヤーにて引き上げる。
アスファルト混合物は、ダム堤体の地震等による影響をおさえる為、低弾性アスファルトを使用する(通常の混合物より弾力性がある)と共に、遮水を目的とする。



- 施工上の問題点 : 初めに、斜面舗装については、斜面の途中で舗設を中止できない事と、フィニッシャーの能力上、施工本数で4本(当現場では、斜面長が35m~60m・A=700㎡~1,200㎡)と決めて施工を行なった。
斜面施工が完了し、底面の試験施工を行なったが、一日の施工量をA=3,000㎡位の施工量を考えていた為、道路上での施工スピード(4m/分)で開始したが、仕上がりが斜面の仕上がりの様な、アスファルトのフラッシュが見られなく素が見られた為、遮水性能が落ちる等の弊害がある為、試験施工を一時的に中断した。
- 解決策 : 低弾性アスファルト混合物は、アスファルトフィニッシャーで95%の締固めを確保したい。この為、アスファルトフィニッシャーをダブルタンクの物と交換した。この為、アスファルトのフラッシュが見られるようになったが、まだ素が見られ。
施工スピードを3m/分・2m/分と落として、試験施工を繰り返した結果、当初の施工スピードの半分の2m/分で満足出来る出来栄えとなった為、当現場の施工スピードを2m/分とした。
- 工事を終えての反省 : 当初底面の施工は障害物も無く、一番施工しやすい状況であると考えて施工量を設定したが、低弾性アスファルト混合物での施工は初めてであった為、アスファルト混合物の特性を理解していなかった。
今後、他の材料についても、まず材料特性を理解した上で日々の施工量を設定し、その現場にあった一番の品質確保を目標とする様努力していきたい。

